

平成31年度 「岡山市就学前親子の居場所」に関する調査報告書 (ダイジェスト版) 令和2年2月

《調査について》

目的

親子が安全・安心に過ごすことのできる岡山市の「就学前親子の居場所」のあり方を検討するために、「就学前親子の居場所」に関するアンケート調査を実施し、就学前の子どもを持つ保護者の子育てで状況やニーズを明らかにしました。

対象

○2019(令和元)年5月現在の岡山市住民基本台帳から無作為抽出した0歳から5歳までの子どもがいる2,520世帯

質問内容

- 属性(続柄、年齢など)、家族(世帯形態、人数など)
- 子どもの就園状況、生活状況
- 居住状況、就労状況、家計状況、家族の健康状態
- 子育てサポート状況(気がかりなこと・心配ごと子育てで不安を含む)
- 就学前親子の居場所ニーズ、体罰等の意識と経験
- 岡山市の就学前親子の居場所について(認知・利用・希望)
- 就学前親子の居場所に関する希望や意見について(自由記述)



期間・方法

- 同年6月7日～6月30日
- 郵送調査法
- 回答数:1,275人、有効回答率:50.6%

《調査結果》

調査項目

<調査対象の属性>

- ・回答者:1,275人、母親(91.5%)
- ・就園児:64.7%、未就園児:35.6%
- ・親平均年齢:34.8歳
- ・子ども平均月齢:36.4ヶ月
- ・第1子:51.5%
- ・きょうだい平均人数:2人 一人っ子30.3%
- ・核家族:86.4%、ひとり親家庭:4.0%
- ・集合住宅:40.2%
- ・居住年数:3年未満40.8%
- ・常勤:31.1%、就労無30.7%
- ・経済状況:苦しい12.0%
- ・健康良好:本人96.5%、子ども98.0%、きょうだい81.6%、配偶者95.8%
- ・障害認定:本人1.3%、子ども3.0%、きょうだい4.3%、配偶者1.2%

<子育てサポート>

- ・サポート知識・情報:携帯71.7%、自分の父母66.4%、友人65.4%、幼稚園等62.4%、パートナー58.7%
- ・相談相手:パートナー、自分の父母(未就園児>就園児)
- ・手伝い:パートナー、先生・職員(就園児>未就園児)
- ・理解:パートナー、自分の父母(未就園児>就園児)
先生・職員(就園児>未就園児)

<子どもの遊び>

- ・おもちゃ83.7%、音楽12.7%:就園状況の有意差無
- ・外遊び、外運動、絵本など、お絵かき(就園児>未就園児)
- ・テレビ、スマホ、ゲーム(就園児>未就園児)
- ・メディア:現在より希望減少

<気がかりなこと・心配ごと>

<就園児>

- ①教育・習い事30.3%
- ②他の子どもとの関係28.1%
- ③情緒発達22.5%

<未就園児>

- ①食事など29.1%
- ②排泄など28.4%
- ③他の子どもとの関係26.9%
- ④教育・習い事22.7%
- ⑤からだの成長20.7%

就学前親子の居場所の課題

- 就学前の子育て家庭の約1/3の未就園児を対象とする親子の居場所の必要性
- 一人っ子(約30%)の子育て家庭に対する子育ての知識・技術の提供
- 居住年数が3年未満が40%の子育て家庭の仲間づくり(子育てネットワークづくり)
- 保護者の就労状況に応じた支援
- ひとり親家庭、経済的に苦しい家庭、障がいのある家族のいる家庭など、配慮を必要とする子育て家庭への支援

- 情報の提供方法として携帯電話を活用すること
- 父親や祖父母が居場所に参加できる子育て支援プログラムの提供

- 遊び環境の整備
- 遊具(おもちゃ、音楽など)の整備
- 遊びの工夫
- 外遊び
- メディア教育

- 子どもの年齢に合わせた支援プログラム(乳幼児、平日午後等に就園児を対象にしたプログラム)
- 子育て講座(気がかりなこと等に関するテーマで月1回程度開催)



調査項目

<子育て不安・体罰等>

- ・子どもをおいた外出42.0%(未就園児>就園児)
- ・両立困難22.0%(就園状況の有意差無)
- ・毎日同じことの繰り返し18.1%(未就園児>就園児)
- ・考えごとおっくう11.8%(就園児>未就園児)
- ・ゆとりがない10.9%(就園児>未就園児)
- ・子どもをたたく(経験)69.9%(就園児>未就園児)

孤立感(第1因子)

「孤独を感じる」「がまんばかりしている」「自分一人で子育て」「毎日同じことの繰り返し」

ストレス感(第2因子)

「ゆとりがない」「リラックスできる時間がない」「自分が楽しめることをしていない」「目覚めがよくない」

困難感(第3因子)

「どうしたらよいかわからない」「うまく子育てができていない」「イライラする」「考えごとがおっくう」

<岡山市就学前親子の居場所>

認知: 子育て支援センター、児童館、おやこクラブ、公民館約70%
利用: 児童館、子育て支援センター約20%(未就園児>就園児)
希望: プレーパーク、児童館約60~70%(未就園児>就園児)

居場所の希望についての記述で出現回数が多かった語

「子ども」、「思う」、「場所」、「遊べる」

居場所の意見についての記述で出現回数が多かった語

「子ども」、「思う」、「公園」、「利用」

就学前親子の居場所で求められること(共起ネットワーク)

場所: 生活面の支援がある場所(食事、トイレのサポート、ある程度の広さを確保した場所(子どもが体を動かして遊べる))
遊び内容: 異年齢と交流できる遊び、両親が共に参加できる子育て講座
その他: 子育て支援サービスの情報発信の拡充、保育園の入園に関すること、公園の使用状況に関すること

<就学前親子のニーズ>

- ・遊び体験: 全体、就園児、未就園児80%以上
 - ・体を動かして遊ぶスペース
 - ・子どもが遊びやすい場
 - ・気軽に立ち寄れる場所
- 全体、就園児、未就園児70~80%以上

子育て相談・支援(第1因子)

「子育て相談」「子育て講座」「専門的相談」「電話相談」「情報の提供」「スタッフと話す」「しつけ支援」「遊び方支援」

遊び場・遊びプログラム(第2因子)

「遊ぶスペース」「遊びやすい遊具・場所」「新しい遊び体験」「気軽に立ち寄れる」「子ども向けプログラム」「親子のふれあうプログラム」「事故・けが・災害等の備え」

子ども・親子・親同士の交流(第3因子)

「子どもの友達ができる」「子ども同士で遊ぶ」「他の子どもの様子を見る・遊ぶ」「親の子育て仲間・友達ができる」「子どもの親以外の大人との関わり」

福祉サービス(第4因子)

「妊娠中からの利用」「子どもを預かり」

就学前親子の居場所の課題

- 子育て相談(場面面接、社会資源につなげる)
- 子どもと一緒に過ごせる場の提供
- 子どもをたたかない子育ての大切さを伝え、その方法の提供
- 子どもの年齢に合わせた支援プログラム(乳幼児、平日午後等に就園児を対象にしたプログラム)
- 子育て講座(気がかりなこと等に関するテーマで月1回程度開催)



- 親子の居場所に関する事業の充実を図る
- 親子の居場所の支援者ネットワークづくり
- 子育て支援サービスの情報発信の拡充・広報



- 遊び場の環境基準・整備
- 子ども・親子・親同士が交流できる居場所づくり
- 遊び場・遊びのプログラム開発
- 子育て支援・親支援プログラム開発
- 子育て相談・支援
- 多様なニーズに応じた福祉サービスの内容検討

就学前親子の居場所モデル事業の目標

本調査により明らかになった「就学前親子の居場所の課題」を解消し、「親子が気軽に集い、親同士の相互交流、子ども同士が異年齢の中で遊べる」といったニーズに沿った居場所の運営を、令和2年度岡山市市民協働推進モデル事業として実施します。調査結果を踏まえた支援内容、対象者(保護者、子ども)との関わり方を考え、実践プログラムの開発を行うとともに、利用者の主体性を尊重し、親子が安全に安心して過ごせる居場所についての検証を行います。

